

天吊耐油形 据付工事説明書

PFS012D005A

1

202408

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載しております。

「室内ユニット据付工事 安全上のご注意」および「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」をご覧になった後、室内ユニットの据付けを行ってください。

●電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。

●リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。

●ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。

●安全遮断弁の取付け方法は、安全遮断弁付属の説明書をご覧ください。

●冷媒検知警報器の取付方法は、冷媒検知警報器付属の説明書をご覧ください。

●室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。

この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

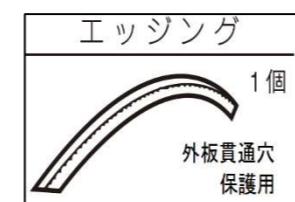
This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

① 据付けのまえに

●据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。

●次の項目を確認してください。

機種・電源仕様 配管・配線・小物部品 付属品



付属品

本体吊り込み	冷媒配管用		ドレン配管用			コントロール用	
平座金	パイプカバー	バンド	塩ビソケット	ホース	クランプ	断熱材	解除ピン※
M10	太	細		VP25			
8 個	1 個	1 個	4 本	1 個	1 個	2 個	3 枚
吊ボルト用	ガス管断熱	液管断熱	パイプカバー	本体側接続	ドレン配管とホース接続	接続部断熱	インターロック解除用

※R32 ビル用マルチ機のみ付属しています。

② 室内ユニットの据付場所の選定

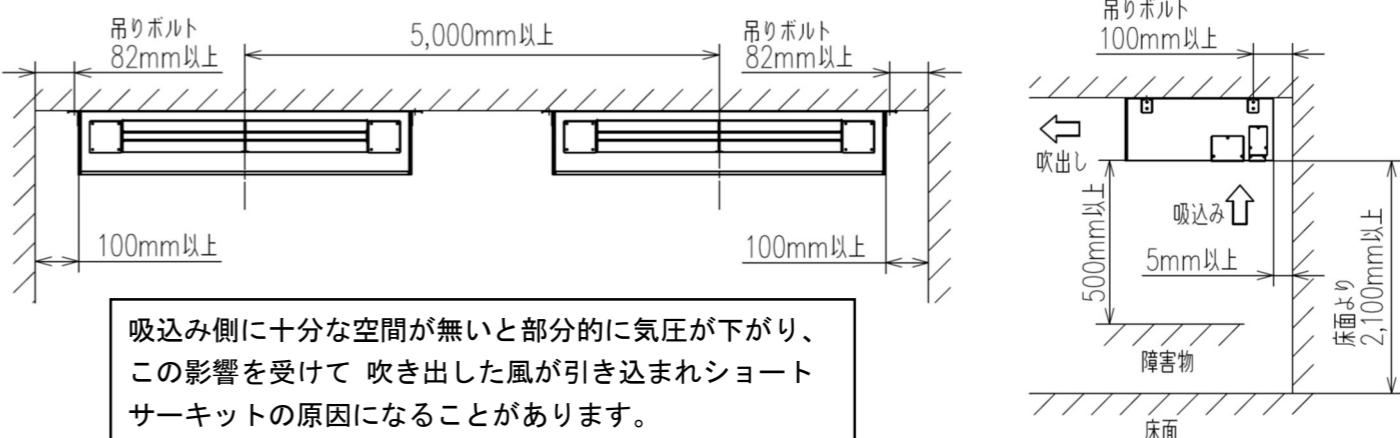
① 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設を検討してください。
- ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
- ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
- ・侵入外気の影響のない所。
- ・直射日光の当たらない所。
- ・周囲の露点温度が23°C以下、相対湿度80%以下の所。

本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。天井埋込で据付ける際は、ユニット天面に断熱材を貼付ける等、必要に応じて結露対策をお願いします。

- ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
 - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
 - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。(ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。)
- ② 据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③ 複数の室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を5m以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース



③ 据付前の準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。

○システム天井(グリッド天井・ライン天井)の場合

吊り長さ(吊りボルト長さ)500mm以上又は天井ふとろ高さ700mm以上の場合に耐震プレースを設置する。

○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合

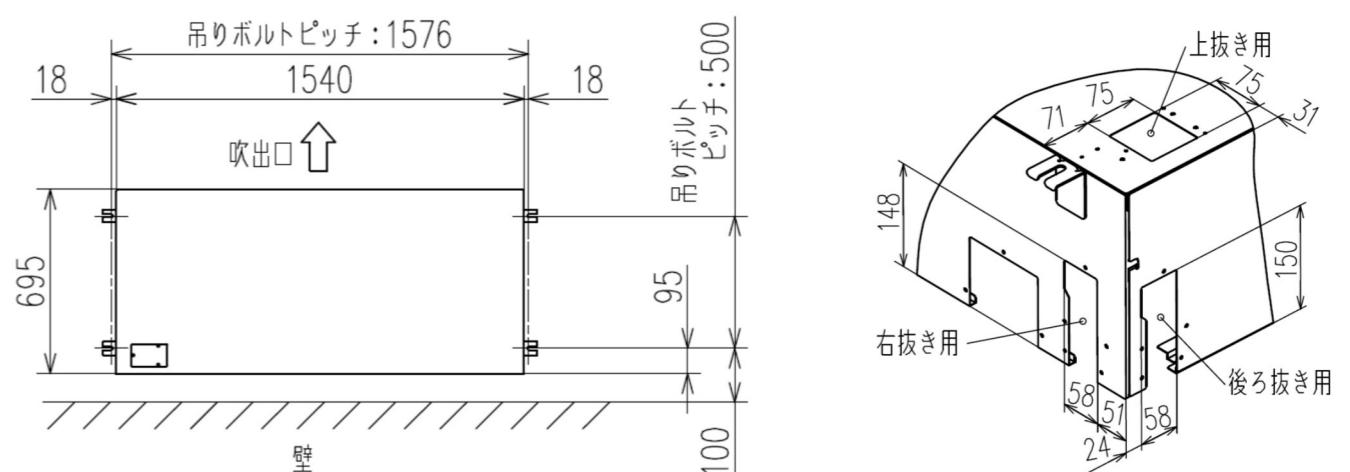
吊り長さ(吊りボルト長さ)1000mm以上の場合に耐震プレースを設置する。

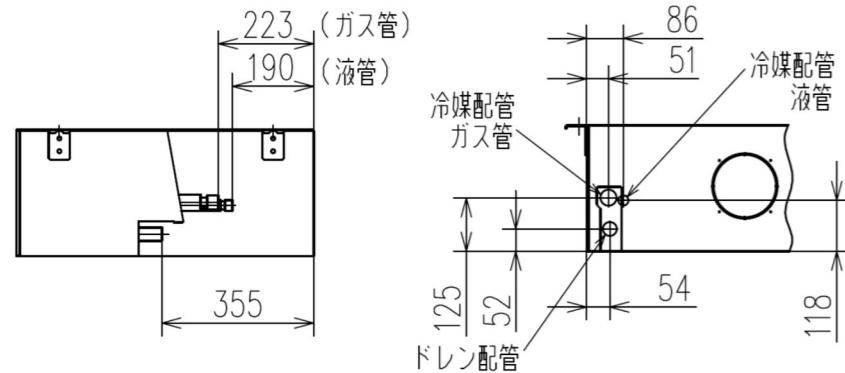
●吊りボルト・ナット・バネ座金(M10又はM8)を4組現地にて手配してください。

1本当たりの引抜強度は、1.25kN以上になる方法で建物に固定してください。(吊ボルト長さ1m以内の場合)

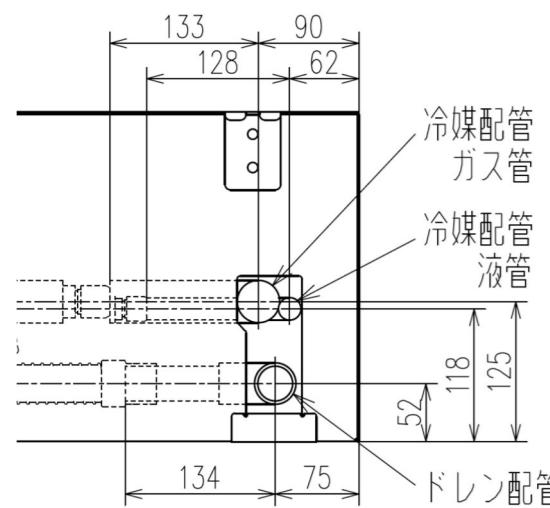
また、吊ボルト長さが1mを超える場合は、耐震計算等により強度確認を行ってください。

吊ボルトピッチ・各配管の位置

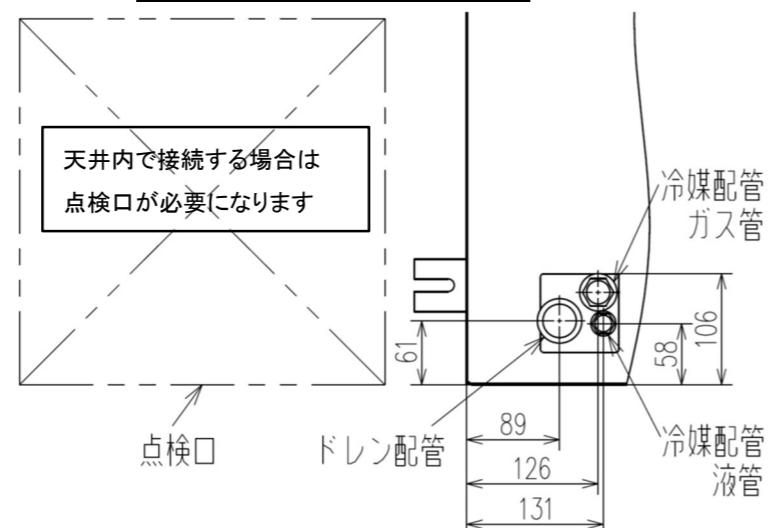




右側面へ配管を抜く場合の位置



天面へ配管を抜く場合の位置



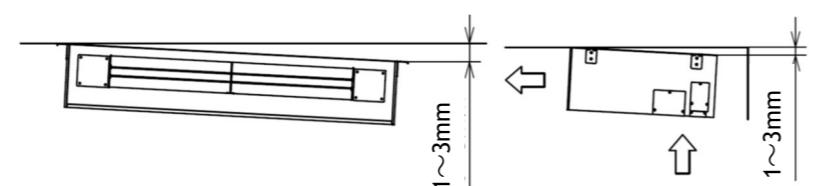
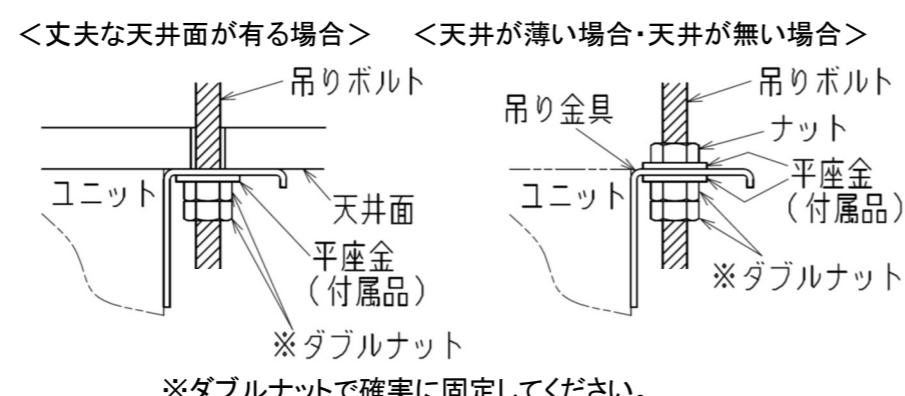
④ 室内ユニットの据付

作業手順

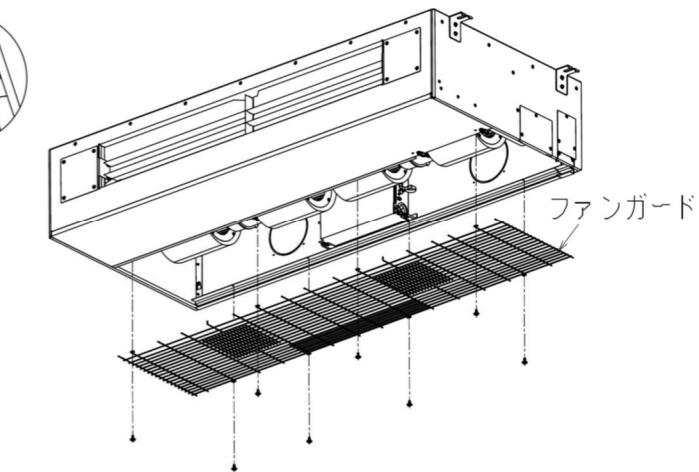
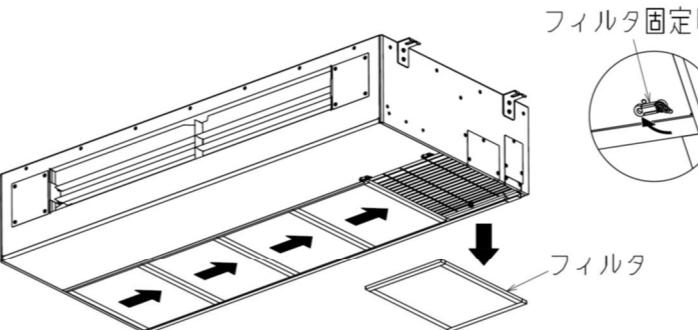
1. 吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトの設置と配管用の穴あけを行ってください。
2. 天井が無い場合・天井面が丈夫で無い場合は、吊金具の上側にもナットを入れてユニットが持ち上がりない様に上下から固定してください。

3. ドレン水の流れをよくするためユニットを排水側に下り勾配を設け据付けてください。逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。

ドレンポンプを装着される場合は基準を超えてユニット傾斜を設けると、配管詰り等の萬一の場合にドレン水があふれ出る原因になりますので厳守してください。



4. エアフィルタの取外しは、配管側の一枚を固定のヒンジを回転させて外した後、残りを横にスライドしてください。

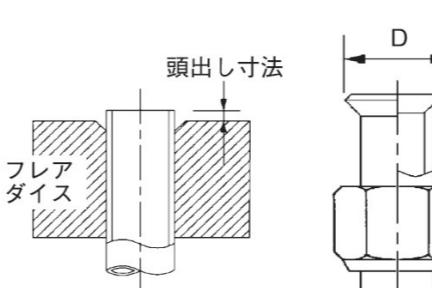


5. ファンガードを取外してください(ねじ8本)

⑤ 冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは製品に付属されているものを使用してください。既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。
- 1)再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属されているものを使用すること。
- 2)再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410A用のフレア加工をしてください。
- 加工後 D寸法を確認してください。フレア面にバリ・傷が無いことを確認してください。



配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N·m		
		リジッド(クラッチ式)					
		R32用 R410A用	従来ツール				
9.52	0.8	0~0.5	0.7~1.3	12.8~13.2	34~42		
15.88	1			19.3~19.7	68~82		

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管

(C1220T、JIS H 3300)をご使用ください。

また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等(コンタミ)の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。

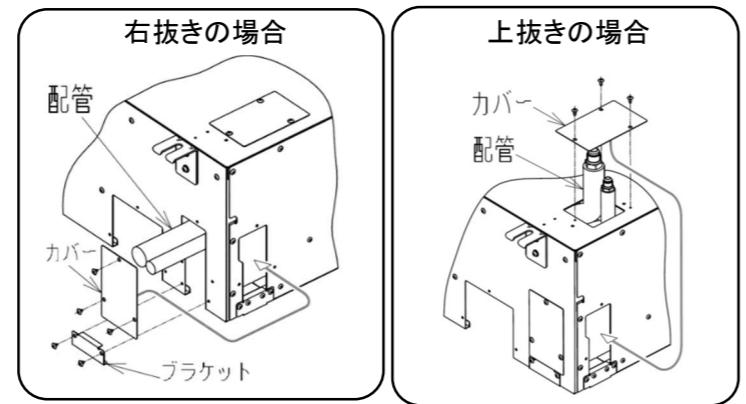
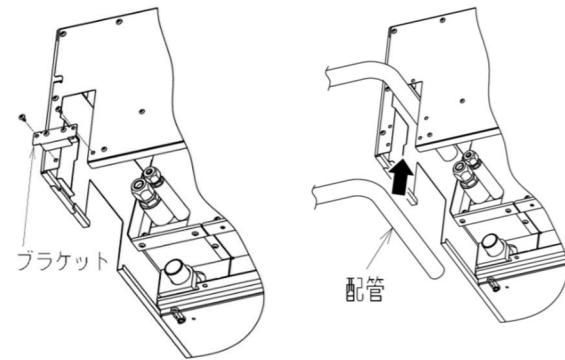
●指定冷媒以外の冷媒は使用しないでください。

指定冷媒以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。

●据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とも ろう付けする直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具は R32用またはR410A用ツールを使用してください。

注意 同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあります。また、ユニオンねじ部、フレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面のみとすること。



- 右抜き又は上抜きの場合、外した板金カバーを背面穴に取り付けてください。
- 外板貫通穴にエッジング(付属品)をはめ込み保護してください。
- 室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取り外す。

※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出ることがあります、異常ではありません。)

●フレアナット飛びに注意してください。

(内部に圧力がかかっている場合があります。)

- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。

※配管の曲げは4D以上の大さな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。また、配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。

※フレア接続は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回ねじ込み、2丁スパナ掛けで前頁表の締付け力で締めてください。

- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締付ける。

●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※配管は断熱しないと結露し水漏れします。

●ガス側配管の断熱材は耐熱120°C以上のものを使用してください。

●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。
天井内・壁内を通す場合、現地配管断熱材厚さ20mm以上を推奨します。

- 冷媒は室外ユニットに充填されています。

室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

⑥ ドレン配管

●ドレン配管の取出方向は、後向き、右向きがあります。

●ドレンポンプ(別売)を組込み上向きすることができます。

注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になります。

●ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。

●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。

●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。

●施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。

●ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。

●試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

作業手順

- 付属の塩ビソケット①に塩ビ管VP25長さ50~55mm②を接着。(出代30mm以上)

- 本体ドレンパンへ塩ビソケット①②をねじ込む(シールテープ等使用)。

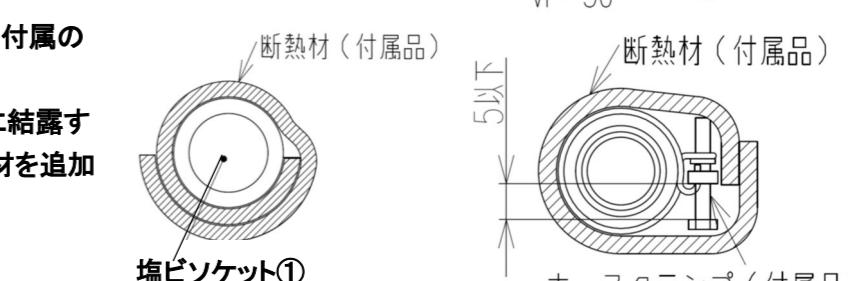
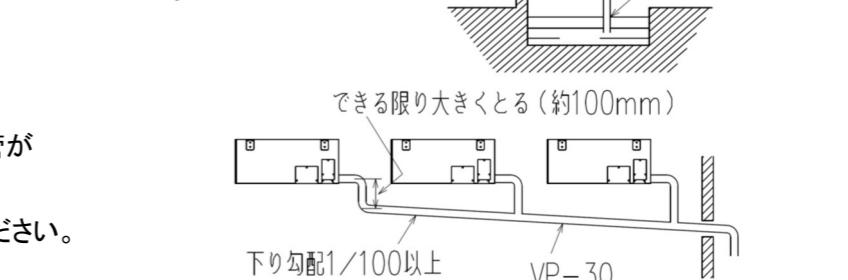
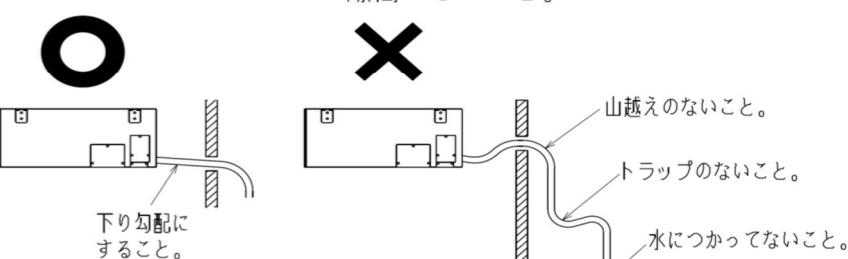
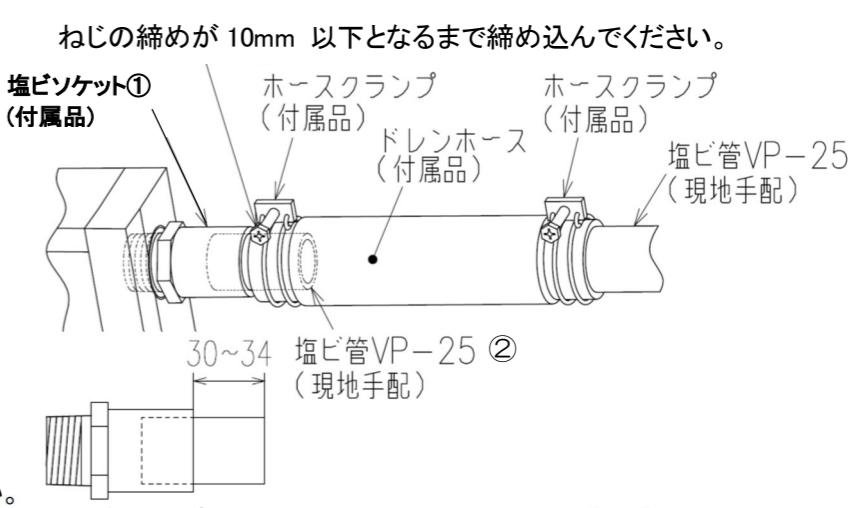
- 付属のドレンホースを塩ビ管②出代部分に指し込み、付属のクランプで確実に締付けてください。(接着剤使用不可)

注意 クランプはホース先端部より5mm程度のところに取付け、ねじの締めが10mm以下となるまで締め込んでください。

- ドレンホースは、ユニット内でたるませないよう注意して勾配をとってください。

- ドレンホースに市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25(現地手配)を接続してください。(接着剤使用不可)

- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。



●複数台のドレン配管の場合、

本体ドレン出口より約100mm下に集合管がくるようようにしてください。

また集合管はVP-30以上を使用してください。

- ドレン配管の断熱施工を行ってください。

●塩ビソケット①及びドレンホースクランプは付属の断熱材を使用して断熱してください。

●高湿度の環境で使用する等、ドレン配管に結露する恐れがある場合は、ドレン配管に断熱材を追加する等結露に対する配慮をしてください。

ドレン排水確認

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、水漏れのないことを確認してください。

●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

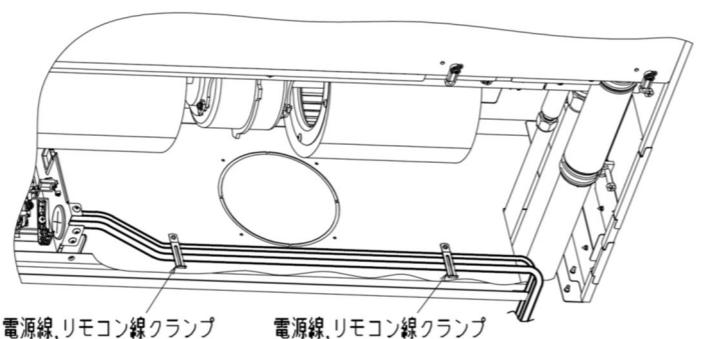
●内蔵ドレンポンプ(別売)使用時は、約2000ccのドレン水が溜ります。確認は約4000ccの水を徐々に入れてください。

ドレンポンプ試運転は、リモコンからまたは室内コントローラSW7-1の切替で強制運転ができます。

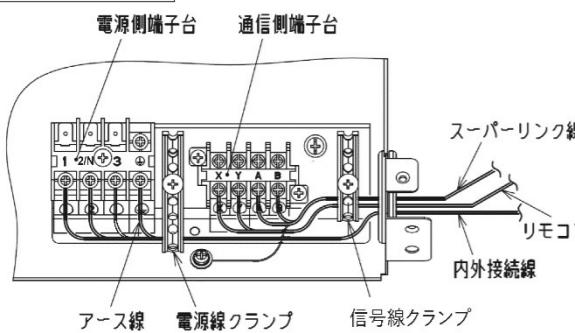
(確認後はスイッチの戻し忘れにご注意ください)

⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

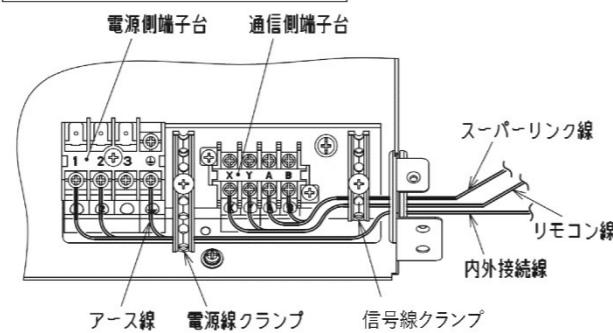
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電源線と通信線は同一経路を通さないようしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。



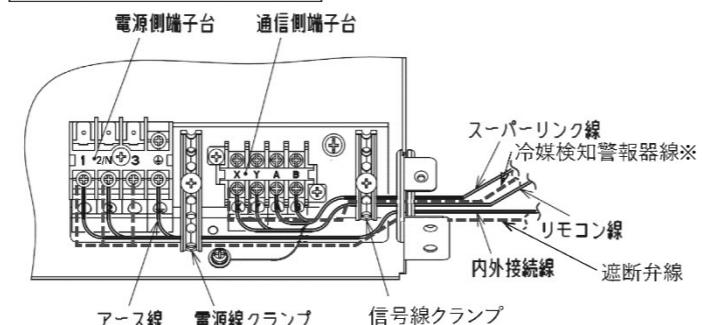
店舗機の配線接続



R410Aビル用マルチ機の配線接続



R32ビル用マルチ機の配線接続



1. 冷媒配管穴から電源線をユニットに入れ板クランプを曲げて配線がたるみファンガードに接触しない様に固定してください。
2. 各配線を端子台に確実に接続してください。
3. 電源線と信号線を別々にクランプで固定してください。
4. コントロールボックスのカバーは、上側をボックス側に差し込み下面からねじ2本で固定してください。

ヒューズ仕様

仕様	部番	採用機種		
		店舗機	ビル用マルチ機	
5A, 250V	SSA564A112	○		
3A, 250V	E200Y03C	○	○	○
3.15A, 250V	SSA564A149AF	○		○

※ 他社製の安全対策機器を接続する場合は
電気配線工事説明書をご覧ください

⑧ インターロック機能(R32ビル用マルチ機のみ)

- R32ビル用マルチ機の室内ユニットは、冷媒漏えいの安全対策のためにインターロック機能が有効になっています。
- インターロック機能が有効になっている場合、空調システムは運転できません。

※インターロックが有効状態だとリモコンにメンテナンスコード(M28)が表示され、ユニットは運転できません。

インターロック機能の解除方法

○すべての安全対策機器が必要な場合

下記のすべての安全対策機器を室内ユニットに接続してください。

- ・安全遮断弁
- ・冷媒検知警報器
- ・ecoタッチリモコン(RC-DX3D以降)

○接続する安全対策機器が一部のみ・安全対策機器が必要ない場合

室内ユニットに付属のインターロック解除ピンを室内制御基板上のコネクタに接続してください。(下図参照)

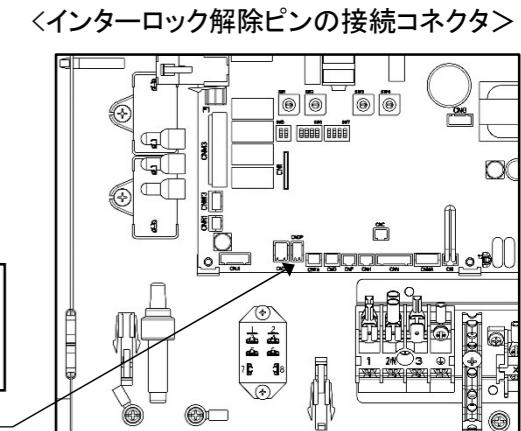
※解除ピンの接続の前には、冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること、もしくは安全対策が必要ないことを必ず確認してください。

※冷媒検知警報器に子機として接続している室内ユニットのインターロック機能を解除するためには、解除ピンの接続が必要です。

※安全対策機器の要否、及びインターロック機能についての詳細は、「安全対策マニュアル」をご覧ください。

インターロック解除ピンは室内ユニットの制御箱付近に付属しています。
使用しない場合は取り外して廃棄してください。

CNOP(コネクタ色:白)



⑨ スポットダクト取付け要領

●専用のスポットダクト(別売): 1mを2本まで取付けることができます。

1. 前面両側の四角いカバーを取り外した後、断熱材を丸く取り除いてください。

断熱材は、円状に切り込みがあり右図〇印4箇所でつながっています。

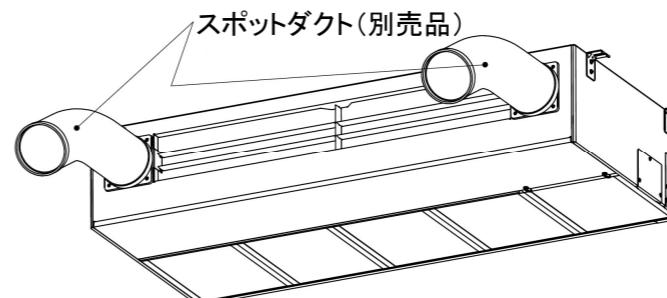
〇印部内側をゆっくり押して打ち抜くことができます。

打ち抜いた断熱材は、ユニット内に忘れることなく確実に捨ててください。

2. 1本当たりねじ4本(カバーを取り付けていたねじ)で固定してください。

3. ダクトを曲げる時は、本体側パネルが変形しない様に支えながらゆっくり作業をしてください。

4. ダクトを前方に伸ばす場合など適宜ダクトの荷重を天井から支える様にして、本体側パネルの変形を防止してください。



(別売品)
品名:吹出しダクト
品番:SAD-10B
仕様:φ125 1m
(伸長時約1.4m)
1本

●ダクトの周辺・下部には、濡れて困るものは置かないこと。
使用する環境によってはダクト表面が結露して露が滴下する場合があります。

⑩ 据付けのあとに

1. 配管貫通穴のすき間を埋めて、小動物の侵入を防止してください。

2. 取外したファンガード(ねじ8本)を元通りに取り付けてください。

3. 取外したエアフィルタを元通りに取り付けてください。

⑪ ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。R32ビル用マルチ機の場合、付属の「据付工事施工チェックリスト(R32ビル用マルチ)」を用いて安全対策機器の確認をしてください。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりとしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

- 作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。

安全のため必ずお守りください。

- 誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「△警告」と「△注意」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用して説明していますので、必ずお守りください。

●「△警告」「△注意」の意味

△警告	守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。
△注意	守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。

- ここで使われる“図記号”的意味は右のとおりです。 () 絶対に行わない () 必ず指示に従い行う

- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

△警告

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。

電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。



- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。



- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。



- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。



- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。



- 室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。



- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカー」を必ずOFFする。点検・修理にあたって、電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。



- 元電源を切った後に電気工事をする。感電、故障や動作不良の原因になります。



△注意

- アース（接地）を確実に行う。

アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。



- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。



- 正しい容量の過電圧カーティリーIIIに準拠した全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。



不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。



- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。



針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。



- 電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。



漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。



- 室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。



- 運転停止後、すぐに電源を切らない。



必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。



- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。



火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。



- 機器の設置は国の配線規則に則り行ってください。



制御の切換

- 室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換可能です。（□は工場出荷時の設定）

スイッチNo.	制御内容	スイッチNo.	制御内容
SW1	室内アドレス(1位)	SW5-2	室内アドレス(100位)
SW2	室内アドレス(10位)	SW6-1~4	機種容量
SW3	室外アドレス(10位)	ON	運転チェックドレンポンプ運転試
SW4	室外アドレス(1位)	SW7-1	OFF 通常運転
SW5-1 (注1)	ON IBSL通信仕様固定 OFF 新SL/IBSL通信仕様自動判別		

注1: 通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。
IBSL:ビル空調2LXシリーズ、ガスヒートポンプM7シリーズ以前
新SL:ビル空調3LXシリーズ、ガスヒートポンプM8シリーズ以降
SW5-1がOFF(工場出荷設定)の場合は、通信仕様(新SL/旧SL)を自動判別します。
IBSL通信仕様固定で使用する場合は、SW5-1をONにしてください。
各通信仕様の特徴、制限は室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

①電源・室内外配線の接続

- 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

- ①配線は銅線以外のものを使用しないでください。

各配線は下記または下記と同等以上のものを使用してください。

ゴム被覆:オーディナリーゴムシース付コード(コード分類 60245 IEC 53)

ポリ塩化ビニル被覆:オーディナリービニルシースコード(コード分類 60227 IEC 53)

- ②電源は、室外ユニット、室内ユニット各々別電源としてください。

- ③電気ヒータ(別売品)はなしにて記載しております。

注:電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。

- ④同一系統内の室内ユニットの電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになるようにしてください。

- ⑤信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損する場合がありますので、接続線を混同しないように細心の注意を払ってください。

- アース線は室内外接続線及び室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかかるないようにしてください。



- 電源は工事が完了するまで入れないでください。

- D種接地工事を必ず行ってください。

- 端子台への接続は、丸型压着端子を接続してください。

- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる二次災害は生じる恐れがあります。

- 機種毎に設定された過電流及び漏洩遮断器を設置してください。

- 室内外の信号線は途中接続しないでください。途中接続した場合に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。(万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。)

- 天井裏内の配線(電源・リモコン・室内外接続線など)はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。

- 室内ユニットに接続する電源線は3.5mm²まで使用可能です。5.5mm²以上の配線を使用する場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。

- 信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損する場合がありますので、ご注意ください。

① A-B 信号線に誤って、200V 電源を接続しても初めの1回は保護します。

② 電源投入15分経過後リモコンからユニットNo.(アドレス)が確認できない場合は、全ての信号線を確認して誤接続を修復してください。

③ 焼損基板のジャンパー線JSL1を切る、またはコネクタJSL1を外し、コネクタCnK1(白)をCnK2(黒)に差し替える。

④ A-B 端子台から基板までの配線に異常があれば交換してください。

- 室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接続しないように施工してください。

- リモコン用端子台には、200V 電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。

- ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続

①ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、信号側端子台に番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース線に接続してください。

②電源には必ず漏洩遮断器を取付けて下さい。漏洩遮断器は、インバータ回路用遮断器(三菱電機製 NV-C シリーズまたは、その同等品)を選定してください。

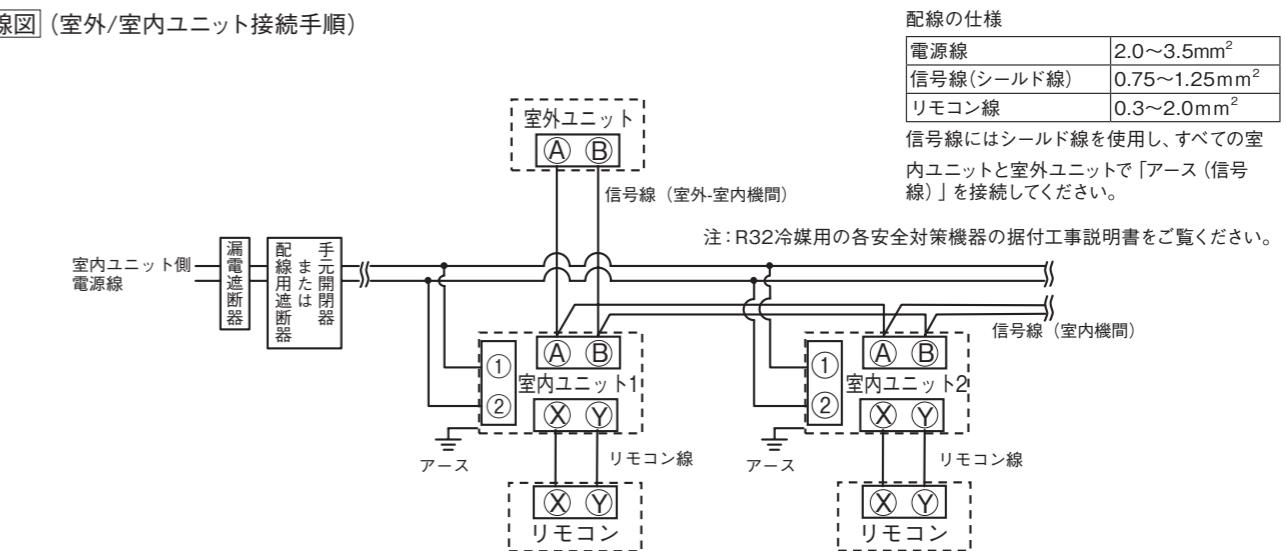
③漏洩遮断器が地絡保護専用の場合には、漏洩遮断器と直列に手元遮断器(手元開閉器+B種ヒューズ)または、配線用遮断器が必要となります。

④手元開閉器はユニットの近傍に設置ください。

- 配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。

- 補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。

配線図 (室外/室内ユニット接続手順)



①電源・室内外配線の接続(つづき)

電源仕様

●室内ユニットを個別に電源に接続する場合

①室内機電源使用(②～③以外の機種)

機種容量	漏電遮断器定格	開閉器容量	ヒューズ	電源線太さ	配線こう長	信号線	リモコン線	アース線
22-36形					298m			
45-56形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² ×2	275m	0.75～1.25mm ² ×2	0.3mm ² ×2心	2.0mm ²
71-90形					179m			
112-160形					123m			
(2)高静圧ダクト、給気処理ユニット、加湿器付外気処理ユニット								
45-90形					149m			
112-160形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² ×2	85m	0.75～1.25mm ² ×2	0.3mm ² ×2心	2.0mm ²
224,280形					28m			
(3)床置形システムパッケージ								
112形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² ×2	51m	0.75～1.25mm ² ×2	0.3mm ² ×2心	2.0mm ²
140,160形					34m			
224,280形	20A 30mA 0.1sec		20A	3.5mm ² ×2	32m			

注1. 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。上記の配線こう長を越える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

注2. リモコン線の延長距離が100mを越える場合は、③リモコンの取付けに従い、配線太さを見直してください。

●複数の室内ユニットを一つの電源に接続する場合

室内機合計電流	配線太さ(mm ²)	配線こう長(m)	配線用遮断器定格電流
7A以下	2	21	20A
11A以下	3.5	21	20A
12A以下	5.5	33	20A
16A以下	5.5	24	30A
19A以下	5.5	20	40A
22A以下	8	27	40A
28A以下	8	21	50A

漏電遮断器の定格感度電流は、下記計算式と判定方法を参照ください。

注3. 下記に示す計算式は目安であり、現地設備、工事内容により異なる場合があります。漏電遮断器が頻繁に作動する場合は、現地設備、工事内容に適した漏電遮断器を選定してください。

<計算式> 必要感度電流 = (各室内機の機種係数 × 台数) の合計値 + (配線係数 × 配線長[km])

<機種係数>

機種	係数
FDT,FDTC	3.5
その他	2.5

<配線係数>

電源配線径	係数
2.0mm ²	50
3.5mm ²	60
5.5mm ²	60
8.0mm ²	60

<判定方法> ※下記の判定方法は参考値です。漏洩電流の許容値および定格感度電流の容量は、国の適用規格に従って選定してください。

(i) 必要感度電流≤30 定格感度電流30mA(0.1s以下)品をご使用ください。

(ii) 30<必要感度電流≤100 原則、必要感度電流が30mA以下となるよう漏電遮断器の系統分割をしてください。系統分割が難しい場合は、接地抵抗値が内線規程に基づいた値以下となる様確実に接地工事を行った場合に限り、定格感度電流100mA(0.1s以下)品の使用が可能です。漏電遮断器の系統分割(追加)が必要です。

(iii) 100<必要感度電流

冷暖フリーマルチの場合

分流コントローラの配線

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ(別売品)に付属の据付説明書をご覧ください。

②アドレス設定

アドレス設定は、(1) 手動アドレス設定、(2) 自動アドレス設定の2方法ができます。

自動アドレス設定の場合、アドレス設定後、ワイヤードリモコンからアドレスの変更が可能です。

設定方法は、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

③リモコンの取付け(別売部品)

●次の位置へ取付けないでください。

○直射日光の当たる所

○発熱器具に近い所

○湿気の多い所、水が飛散する所

○取付面が発熱・結露する所

○油の飛沫や蒸気が直接触れる所

○取付面の凹凸がある所

リモコン取付・配線

①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。

②リモコン線は、0.3mm²×2心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は1mm以上のものを使用してください。(現地手配)

③リモコン線の総延長は600mです。

延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。配線接続部では防水処理が必要です。接触不良にご注意ください。

100～200m以内···0.5mm²×2心

300m以内···0.75mm²×2心

400m以内···1.25mm²×2心

600m以内···2.0mm²×2心

④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。

⑤リモコン線はアース(建物の鉄骨部分または金属など)からできるだけ離してください。

⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。(極性はありません)

1リモコンによる複数台室内ユニット制御

①1つのリモコンで複数台のユニット(最大16台)をグループ制御できます。

同一モード、同一室温設定で運転します。

②グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。

③室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。

○室内ユニット基板上のロータリースイッチSW1, SW2及びディップスイッチSW5-2により、室内No.を重複しないように設定してください。

④右図のように室外ユニットが複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。

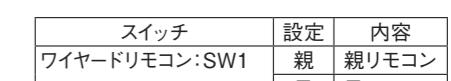
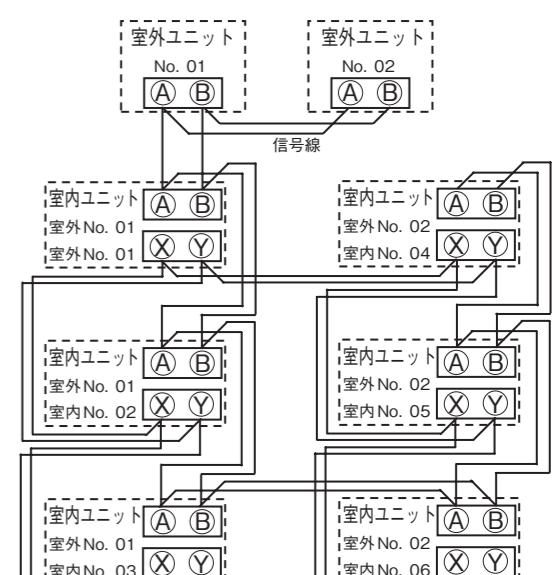
複数リモコン使用時の親子設定

室内1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



スイッチ	設定	内容
ワイヤードリモコン:SW1	親	親リモコン
ワイヤレスキット:SW1-2	子	子リモコン

④リモコンからの操作・確認方法

No.	項目	eco タッチリモコンから操作(RC-DX シリーズ)	標準リモコンから操作(RC-D シリーズ)
1	リモコン系統内の接続ユニットの接続台数確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを1台ずつ確認してください。
2	リモコン系統内の接続室内ユニットの接続確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示] ⇒ [個別送風運転]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを選択してください。 ③[運転切換] を押してください。送風運転します。
3	親子リモコン設定	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [リモコン親子設定]	子リモコン切換スイッチ(SW1)を「子」に設定してください。
4	運転データの確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [運転データ表示]	[点検] ⇒ 運転データ表示▼ ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ 室内機選択 ⇒ ▲▼ボタンで接続されている室内アドレスを1台選択 ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ ▲▼データ選択
5	点検表示の確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [点検表示]	[点検] ⇒ 運転データ表示▼ ⇒ [▼] ⇒ エラーデータ表示▲ ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ データ表示
6	リモコンからの冷房試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [冷房試運転] ⇒ [開始]	①[運転 / 停止] を押し、運転させてください。 ②[運転切換] により、「冷房」を選択します。 ③[試運転] を3秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。 ④「冷房試運転▼」の表示で、[セット] ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
7	リモコンからドレンポンプ試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [ドレンポンプ試運転] ⇒ [運転]	①[運転 / 停止] を押し、運転させてください。表示が「冷房試運転▼」となります。 ②[▼] を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。 ③[セット] を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示：「セットで停止」

リモコン形式の違いにより、メニュー構成が異なる場合があります。リモコン形式が異なる場合は、リモコン付属の据付説明書をご覧ください。

⑤リモコンからの操作・設定

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準リモコン
1. リモコンネットワーク			
1 複数室内機制御	リモコン1台(リモコンネットワーク内)に最大16台室内機を接続制御できます。室内機側にアドレスを設定します。	○	○
2 親子リモコン設定	リモコンネットワーク内に2個のリモコン(含むワイヤレスリモコン)を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	B	○
2.TOP 画面・SW 操作			
1 メニュー	制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A	
2 運転モード	冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A	○
3 設定温度	室温を0.5°C単位で設定します。	A	○
4 風向	風向を設定します。おまかせ気流の有効/無効を設定します(FDKの場合)。※2	A	△
5 風量	風量を設定します。	A	○
6 タイマー設定	タイマー運転を設定します。	A	○
7 運転/停止 SW	運転を開始します。/停止します。	A	○

※1: RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※2: RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。
※3: RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
※4: RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。

※5: RC-DX3C 以前のリモコンには、この機能はありません。
※6: 標準リモコンには、この機能はありません。
※7: 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準リモコン
8 F1スイッチ	※1 F1スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
9 F2スイッチ	※1 F2スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
10 言語切換	※2 リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / ポルトガル語 / 中国語	A	
3. 便利機能			
1 フリーフロー設定	各ルーバーの可動範囲(上限位置-下限位置)を設定します。 FDKの場合は左限位置-右限位置も設定します。※2	A	△
2 エアフレックス(風よけ)設定	※1 詳細設定: 各運転モード、各吹出口のエアフレックス(風よけ)機構動作の有効/無効を設定します。 エアフレックスパネル組合せの場合 ※3 ON/OFF 切換: 詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックス ON/OFF(作動中/停止中)を切換えます。	A	
3 サーマルセンサ制御	※7 室内ユニットのサーマルセンサ制御を設定します。	A	
4 タイマー設定	時間入タイマー 停止後、運転させたい時間を設定します。 ・1~12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	
	時間切タイマー 運転後、停止させたい時間を設定します。 ・1~12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。	A	△
	時刻入タイマー 運転開始時刻を設定します。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・1回のみ/毎日の切換が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
	時刻切タイマー 運転停止時刻を設定します。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・1回のみ/毎日の切換が可能です。	A	△
	ウィークリータイマー 1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・1日最大8パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
	タイマー設定内容確認 各タイマーの設定内容を一覧できます。	A	
5 おこのみ設定	※1 おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定1、おこのみ設定2のそれぞれに設定が可能です。	A	
6 るす番運転	管理者パスワード お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温/低温にならないように温度を保ちます。 ・外温と制御温度により冷房/暖房を行います。 ・設定温度、風量の設定が可能です。	A	
7 換気	換気のON/OFF操作を行います。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ・換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転/停止ができます。	A	○
8 言語切換設定	リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / ポルトガル語 / 中国語	A	
9 室外静音設定	※2 室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・室外静音運転の開始・停止を設定します。	A	△
10 室内機無線 LAN 設定	※7 無線LANを介した専用アプリによる室内機操作の有効/無効を設定します。	A	
11 省エネモード設定	※5 室内ユニットの省エネモードを設定します。	A	
12 見てみて	室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・室内ユニット-室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
13 消費電力量表示	※1 今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・室内ユニット-室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	

⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目	詳細内容		eco タッチ	標準 リモコン
4. 省エネ設定	管理者パスワード			
1 切忘れ防止タイマー	運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・設定時間は30～240分(10分単位)まで選択可能です。 ・設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。	A		
2 ピークカットタイマー	能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・1日最大4パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・能力制限率は0.40～80%(20%単位)から選択可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A		
3 設定温度自動復帰	設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・暖房モード/冷房モード他、各々設定可能です。 ・設定時間は20～120分(10分単位)まで設定可能です。 ・設定時刻は10分単位で設定可能です。	A	△	
4 人感センサ制御 ※1	人感センサを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効/無効を設定します。	A		
人感センサがある場合	パワーコントロールの冷房時/暖房時設定温度を設定します。	A		
5. お手入れ				
1 フィルタサインリセット	フィルタサインの解除 フィルタサインの解除を行います。	A	○	
	次回清掃日の設定 次回清掃日の設定を行います。	A	△	
2 グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル 組合せの場合 ラクリーナパネル グリルの昇降操作をします。 [メニュー]⇒[サービス設定]⇒[据付設定]⇒[グリル昇降操作]の設定が必要です。	A	○	
	降下長設定 グリル昇降長さを設定します。 ・0.1～4.0mの範囲で設定できます。 ・設定長さは0.1m単位で設定可能です。 ・接続室内ユニット毎に設定できます。	A	○	
	ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合 ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。	A		
3 お掃除パネル設定	お掃除自動設定 自動清掃の有効/休止を設定します。	A		
管理者パスワード	清掃時間帯設定 自動清掃を開始する時間帯を設定します。	A		
	清掃間隔設定 自動清掃する最小の間隔を設定します。	A		
	ダスト回収設定 ダストの回収時期を設定します。	A		
	ブラシ清掃回数設定 ブラシの清掃回数を設定します。	A		
	ブラシ移動速さ ※4 ブラシ移動速さを設定します。	A		
	ブラシ往復数 ※4 ブラシ往復数を設定します。	A		
6. ユーザ設定				
1 初期設定	時刻設定 現在の日付・時刻を設定及び修正を行います。 ・80時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。	A	△	
	時刻表示設定 時刻表示のあり/なし、12H/24H、AM/PM位置、を設定します。	A		
	サマータイム補正 現在時刻に対し、+1時間の補正を行います。	A		
	コントラスト調整 液晶の濃度の調整を行います。	A		
	バックライト バックライトの有効/無効、点灯時間を設定します。	A		
	ブザー音 タッチパネル操作時のブザー音のあり/なしを設定します。	A		
	運転ランプ輝度 ※1 運転ランプの輝度の調整を行います。	A		

※1: RC-DX2以前のリモコンには、この機能はありません。

※5: RC-DX3C以前のリモコンには、この機能はありません。

※2: RC-DX3以前のリモコンには、この機能はありません。

※6: 標準リモコンには、この機能はありません。

※3: RC-DX3A以前のリモコンには、この機能はありません。

※7: 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。

※4: RC-DX3B以前のリモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目	詳細内容		eco タッチ	標準 リモコン
2 管理者設定	操作制限設定 管理者パスワード	・操作の許可/禁止を設定します。 [運転/停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] [消費電力量表示]※1※6 [サーマルセンサ制御]※7 ・操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定] [ウイークリータイマー設定][言語切換設定] [エアフレックス(風よけ)設定]※1※6	A	△
室外静音タイマー		室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。	A	△
設定温度範囲		設定温度範囲を制限します。 ・運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△
温度設定刻み切換		設定温度の刻み(0.5°C/1.0°C)を設定します。	A	
設定温度表示切換		設定温度の表示の仕方を切り替えます。	A	
リモコン表示設定		リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり/なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり/なしを設定します。	A	△
管理者パスワード変更		管理者パスワードの変更を行います。 管理者パスワードのリセットを行います。	A	
スイッチ機能変更 ※1		F1、F2スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [エアフレックスON/OFF]※3 [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転] [おこのみ設定運転1][おこのみ設定運転2][フィルタサインリセット] [グリル昇降][消費電力量表示] [サーマルセンサ制御]※7	A	
冷媒検知警報器設定 ※5		リモコンで冷媒検知警報器を設定します。 設定できる項目 [ブザー音][LED輝度][冷媒濃度しきい値]	A	
リモコンアラーム音 確認 ※5		リモコンの警報機能を確認します。	A	
遮断弁チェック運転 ※5		遮断弁チェック運転を行います。	A	
遮断弁チェック運転 結果 ※5		遮断弁チェック運転の結果を表示します。	A	

⑤リモコンからの操作・設定 (つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
7. サービス設定			
1 据付設定			
据付日登録	据付日を登録した場合、点検表示を行います。	B	
サービス情報入力	リモコンに連絡先を登録することができます。 ・連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ・連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B	
試運転	試運転の開始／停止を制御できます。	B	△
冷房試運転	設定 5°C 30 分間運転します。		
ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。		
お掃除試運転	フィルタ清掃 ブラシ清掃運転します。 お掃除パネル組合せの場合	B	
安全システム 試運転 ※ 5	冷媒漏洩検知時の各機器（室外ユニット、室内ユニット、リモコン、 安全対策機器）の動作確認運転します。	B	
ダクト機静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B	
自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B	△
親室内機アドレス 設定	個別発停マルチシリーズ 設定された親ユニットのみ運転モード変更を許 可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って 運転します。	B	△
バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台 (2 グループ) は接続されている時にロー ーション運転、キャバシティバックアップ運転、フルバックアップ運転 の有効／無効が設定できます。	B	
人感センサ設定 ※ 1	リモコンに接続された室内機の人感センサ検知の有効／無効を設定しま す。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサ制御を行うことができません。	B	
人感センサ付パネル の組合せの場合			
リモコンアラーム音 設定 ※ 5	リモコンの警報機能の有効／無効を設定します。	B	
サーマルセンサ設定 ※ 7	サーマルセンサの有効／無効を設定します。	B	
ドレンクリーン (UV-C) 設定 ※ 5	ドレンクリーン (UV-C) の有効／無効を設定します。	B	
グリル昇降操作	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B	○
2 リモコン設定			
サービスパスワード			
リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。	B	○
吸込センサー制御	1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に 用いる吸込センサーを選択できます。 ・個別／親機／平均の選択が可能です。	B	
リモコンセンサー	リモコンセンサーに切り替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。	B	△
リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房／暖房 別々に補正可能です。	B	△
運転モード選択	各運転モード毎に有効／無効を設定できます。	B	△
設定温度単位	設定温度の単位を設定します。 ・°C／°F の選択が可能です。	B	
ファン速度	ファン速度の選択が可能です。	B	○
外部入力設定	1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT 入力の適用 範囲が設定されます。	B	○
上下ルーバ制御	上下ルーバの [4 位置停止] / [フリー停止] の切換ができます。	B	○
左右ルーバ制御 ※ 2	左右ルーバの [固定位置停止] / [フリー停止] の切換ができます。	B	
換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。	B	○
停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。	B	○
設定温度自動設定	設定温度自動の有効／無効を選択できます。	B	
風量自動設定	風量自動の有効／無効を選択できます。	B	

※ 1 : RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 2 : RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 3 : RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 4 : RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 5 : RC-DX3C 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 6 : 標準リモコンには、この機能はありません。
※ 7 : 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定 (つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
3 室内設定			
サービスパスワード			
風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。	B	○
フィルターサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。	B	○
外部入力 1 設定	外部入力 1 の制御内容を換えられます。	B	○
外部入力 1 方式切換	外部入力 1 の信号方式を換えられます。	B	○
外部入力 2 設定	外部入力 2 の制御内容を換えられます。	B	
外部入力 2 方式切換	外部入力 2 の信号方式を換えられます。	B	
暖房室温補正	暖房サーモ判定値を 0 ~ +3°C の範囲で補正できます。	B	○
吸込温度補正	吸込センサー検知温度を ± 2°C の範囲で補正できます。	B	○
冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。	B	○
フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更で きます。	B	○
ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。	B	○
冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
暖房ファン間欠	暖房停止・暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。	B	○
送風サーモ運転	送風時のサーユニタ運転を設定できます。	B	
外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。	B	
運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を 3 種類から選択できます。	B	
サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。	B	
風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。	B	
室内過負荷アラーム	運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定 した温度差以上ある場合、外部出力 (CNT-5) から過負荷アラーム信 号を送信します。	B	
外部出力設定 ※ 1	外部出力 1 ~ 4 に割り当てる機能を換えられます。	B	
デフロスト時ファン 制御 ※ 5	デフロスト運転時のファン回転数を設定します。	B	
4 サービス・ メンテナンス			
サービスパスワード			
エアコンNo. 表示	リモコン 1 台に 16 台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で 確認できます。	B	○
次回点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。	A B	
運転データ表示	室内ユニット+室外ユニットの運転データをモニターすることができます。	B	○
点検表示			
異常履歴表示	過去の異常履歴 (点検コード・発生時間) を表示します。	B	△
異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。		
異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。		
定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。		
室内設定保存	接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。	B	
特殊操作	[室内アドレス消去] [CPU リセット] [初期化設定] [タッチパネル調整] の 操作ができます。	B	△
室内機容量表示 ※ 1	リモコンに接続されている室内アドレス番号とその形式、容量を表示します。	B	
安全システムメンテナンス ※ 5	リモコンで安全対策機器のメンテナンスを行います。	B	
遮断弁メンテナンス ※ 5	安全遮断弁の状態確認、コイル交換表示のリセット、遮断弁交換表示のリ セットを行います。		
安全システム接続 状態確認 ※ 5	室内ユニットと安全対策機器の接続状態を表示します。		
冷媒センサ積算 時間保存 ※ 5	冷媒センサの積算時間をリモコンに保存、転送します。		
冷媒センサ積算 時間リセット ※ 5	冷媒センサの積算時間をリセットします。		
UV-C メンテナンス ※ 5	ドレンクリーン (UV-C) のメンテナンスを行います。	B	
照射設定 ※ 5	ドレンクリーン (UV-C) の照射時間を設定します。		
照射積算時間 リセット ※ 5	ドレンクリーン (UV-C) の積算時間をリセットします。		
お掃除パネル点検	お掃除パネルの詳細点検操作ができます。	B	

